

## 作家さんの技量に感動「夢の手づくり市」



11月28日（日）三重県総合文化センターにて、「夢の手づくり市」が開催されました。

この「夢の手づくり市」は、アートから食品まで個性ある作家さんが、思いを込めて作った作品を出店販売しています。毎月およそ100店舗の作家さんが集まってきています。約30%は、京都、奈良、滋賀、兵庫、大阪、愛知など県外の作家さんです。手づくりに「夢の手づくり市」は目に見えるもの、見えないものがあり、クラフト等の手づくりだけ

ではなく、音楽やパフォーマンスも見られます。地域の方、作家さん、人と人との繋がりを通じ、心が豊かになる良いものに出逢えます。また、毎月ごとにバージョンアップされていく作家さんの心意気やその技量に魅了されます。この「夢の手づくり市」を始めたきっかけとして、企画する長岡正樹さんは、京都の梅小路公園の桜満開の下で、約500店舗のお店が並び、そこで出会った一人の主婦のお話の中で「夢が叶い店が持てた」との言葉に共感したと言っていました。そして、「人は人からしか学べないものがある」ということを、改めて教えていただいたとも言っていました。

2012年4月にスタートした手づくり市ですが、設立当初から苦労したということですが、今ではリピーターのお客さんも増え、地域の住民の人も出店者になる例も出てきたそうです。自分の好きな仕事が、共感され、感謝され、実感されます。人生豊かになった気がします。

## 水が危ない 水道事業民営化に思う

水道法の改正は2018年12月に行われました。なぜ水道法の改正が行われたのか。水道施設の老朽化 ②人口減少による自治体の脆弱化 ③耐震化の遅れ等が考えられます。また、水道料金の格差も問題となっています。同じ量を使っても850円の地域もあれば、6000円以上のエリアもあります。水道民営化には、運営権の売却により利益が出る反面、自治体によってリスクコントロールができなくなることや経営破綻もあり得ることも懸念されます。多くの国で民営化されましたが失敗に終わった例もあります。料金は高くなり水質は悪化して訴訟問題に発展した地域もあると聞いています。津市においても窓口業務や料金徴収業務等の民営化がされていますが、水道事業そのものの経営権までは至っていません。きれいな水、おいしい水を守るために、津市としての料金収入の安定化、設備投資による安全性、耐震性の向上を目指し、事業推進しなければなりません。水道は生活になくってはならないもので、民営化についても今後どのように動いていくにしても、一人ひとりが問題意識をもって、その都度議論していくことが大切です。

## 私の寺院巡り 千本釈迦堂 大報恩寺（京都市上京区）

幾多の戦火を免れた本堂は、安貞元年（1227）の創建時のままのものであり、京都市内最古の木造建築物として国宝に指定されています。また、行快作「本尊釈迦如来像（秘蔵）」や、快慶作「十大弟子像」、定慶作「六観音菩薩像」など、壁画、仏像彫刻が国宝・重文です。「六観音像」は、聖、千手、馬頭、十一面、准邸、如意輪の六体の観音像で、六道信仰に基づいて作られた仏像で、全国で唯一の六体一同に安置されている観音様を拜むことができます。2018年には、東京国立博物館で展示され、2019年には、九州国立博物館で展示されました。世界の博物館や美術館から御呼ばれする美仏はここにあり!! 大報恩寺にお参りすると、境内にある「おかめ塚」に因み”縁結び“夫婦円満、子授けにご利益があるといわれています。また、新西国三十三（観音、十六番札所）、近畿十楽観音霊場二番札所、京都十三番佛霊場第八番札所、数珠巡礼会と4つの霊場札所があることで知られています。

